

2次方程式 $4x^2 + 2x - 1 = 0$ の2つの解を α, β ($\alpha > \beta$) とする.

(1) $\alpha = \cos \theta$ となる角 θ が, $\frac{\pi}{3} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲に1つだけ存在することを示せ.

以下, θ は (1) で定まるものとする.

(2) $\beta = \cos 2\theta$ であることを示せ.

(3) θ の値を求めよ.

(4) $\sin \frac{3\theta}{4}$ を求めよ.

(13 東北大 後期 理学部 1)

(1) 略

(2) 略

(3) $\theta = \frac{2}{5}\pi$

(4) $\sin \frac{3\theta}{4} = \frac{1 + \sqrt{5}}{4}$

【チェック・チェック】

東北大の講評では

「(1) で一意性に関する吟味のない答案が多かった。(3) で正解に至った答案は殆ど無かった。」と書かれていました。

(3) では $\cos \theta$, $\cos 3\theta$ が $4x^2 + 3x - 1 = 0$ の解なので、解と係数の関係を用いると、2次方程式の話をも $\cos \theta$, $\cos 3\theta$ についての連立方程式の話に言い換えることができます。

【解答】

(1) $4x^2 + 2x - 1 = 0$ を解くと $x = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{4}$
 $\alpha > \beta$ より

$$\alpha = \frac{-1 + \sqrt{5}}{4}, \beta = \frac{-1 - \sqrt{5}}{4}$$

$f(x) = \cos x$ は $\frac{\pi}{3} \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ で単調減少であり、また

$$f\left(\frac{\pi}{3}\right) = \frac{1}{2}, \quad f\left(\frac{\pi}{2}\right) = 0$$

である。

また、 α については $2 < \sqrt{5} < 3$ より $\frac{-1+2}{4} < \alpha < \frac{-1+3}{4}$
 すなわち $\frac{1}{4} < \alpha < \frac{1}{2}$ である。これより

$$0 < \alpha < \frac{1}{2} \quad \therefore f\left(\frac{\pi}{2}\right) < \alpha < f\left(\frac{\pi}{3}\right)$$

よって、 $f(\theta) = \alpha$ すなわち $\cos \theta = \alpha$ となる θ が $\frac{\pi}{3} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲にただ1つだけ存在する。……(証明終わり)

(2) $\cos 2\theta = 2\cos^2 \theta - 1 = 2\left(\frac{-1 + \sqrt{5}}{4}\right)^2 - 1$

$$= \frac{3 - \sqrt{5}}{4} - 1 = \frac{-1 - \sqrt{5}}{4} = \beta$$

よって $\cos 2\theta = \beta$ ……(証明終わり)

(3) (1), (2) より $\cos \theta$, $\cos 2\theta$ は $4x^2 + 2x - 1 = 0$ の解である。解と係数の関係から

$$\begin{cases} \cos \theta + \cos 2\theta = -\frac{1}{2} & \dots\dots \textcircled{1} \\ \cos \theta \cos 2\theta = -\frac{1}{4} & \dots\dots \textcircled{2} \end{cases}$$

積を和に直す公式を用いて②を変形すると

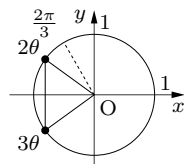
$$\frac{1}{2}(\cos 3\theta + \cos \theta) = -\frac{1}{4}$$

$$\therefore \cos 3\theta + \cos \theta = -\frac{1}{2} \quad \dots\dots \textcircled{2}'$$

①, ②' から

$$\cos 3\theta = \cos 2\theta$$

$\frac{\pi}{3} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ より、 $\frac{2}{3}\pi \leq 2\theta \leq \pi$, $\pi \leq 3\theta \leq \frac{3}{2}\pi$ であるから、 2θ , 3θ により決まる



← 2次方程式の解の公式

← θ の一意性をいうためにはこの単調性が大切

← 2倍角の公式

← $\cos \theta$, $\cos 2\theta$ についての連立方程式

← 三角方程式を解く(角の比較を考える)

単位円周上の点は x 軸に関して対称である.

$$\frac{2\theta + 3\theta}{2} = \pi \quad \therefore \theta = \frac{2}{5}\pi \quad \dots\dots(\text{答})$$

- $\cos 3\theta - \cos 2\theta = 0$ については和を積に直す公式を用いて解くこともできる.

$$\cos 3\theta - \cos 2\theta = -2 \sin \frac{5\theta}{2} \sin \frac{\theta}{2}$$

$\frac{\pi}{3} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ より, $\frac{5\pi}{6} \leq \frac{5\theta}{2} \leq \frac{5\pi}{4}$, $\frac{\pi}{6} \leq \frac{\theta}{2} \leq \frac{\pi}{4}$ であり, $\sin \frac{\theta}{2} \neq 0$ であるから

$$\sin \frac{5\theta}{2} = 0 \quad \therefore \frac{5\theta}{2} = \pi \quad \therefore \theta = \frac{2}{5}\pi$$

(4) (3) より

$$\sin \frac{3\theta}{4} = \sin \frac{3\pi}{10} = -\cos \left(\frac{\pi}{2} + \frac{3\pi}{10} \right) = -\cos 2\theta = -\beta$$

よって $\sin \frac{3\theta}{4} = \frac{1 + \sqrt{5}}{4} \quad \dots\dots(\text{答})$

- \sin を \cos に直すには余角の公式を用いればよい.

$$\cos \left(\frac{\pi}{2} \pm \alpha \right) = \mp \sin \alpha$$

より

$$\sin \alpha = \mp \cos \left(\frac{\pi}{2} \pm \alpha \right)$$

である, 解答では $\sin \alpha = -\cos \left(\frac{\pi}{2} + \alpha \right)$ を用いた. $\sin \alpha = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \alpha \right)$ を用いると次のようになる.

$$\begin{aligned} \sin \frac{3\theta}{4} &= \sin \frac{3\pi}{10} = \cos \left(\frac{\pi}{2} - \frac{3\pi}{10} \right) = \cos \frac{\pi}{5} \\ &= \cos \frac{\theta}{2} = \sqrt{\frac{1 + \cos \theta}{2}} (> 0) \\ &= \sqrt{\frac{1}{2} \left(1 + \frac{-1 + \sqrt{5}}{4} \right)} = \sqrt{\frac{3 + \sqrt{5}}{8}} \\ &= \sqrt{\frac{6 + 2\sqrt{5}}{16}} = \frac{\sqrt{5} + 1}{4} \end{aligned}$$

$$\leftarrow \cos A - \cos B = -\sin \frac{A+B}{2} \sin \frac{A-B}{2}$$

$\leftarrow \sin \frac{3\pi}{10}$ は既知の角で表現できないから, $\cos \theta$, $\cos 2\theta$ と関連付けたい. まずは, \cos で表す.